

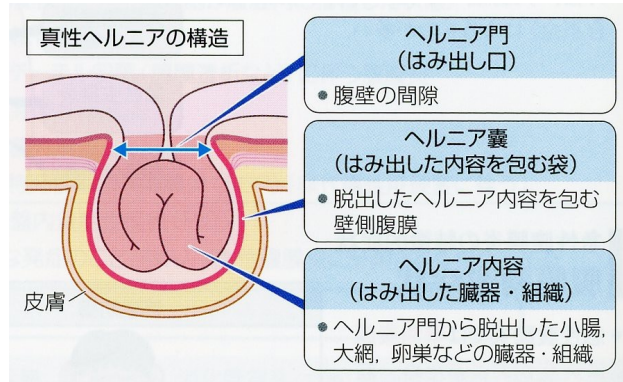
## 「腹部のヘルニア」について

### ヘルニアとは？

先天的・後天的な原因で生じた組織の間隙から臓器や組織が脱出している状態です。

生体の様々なところで発生し、腹部のヘルニアでは、特に腸が飛び出すことが多いため一般的には「脱腸」と呼ばれることもあります。(図右) 椎間板「ヘルニア」なども類似した状態を指します。

\* 構造的分類としては、ヘルニア内容が、壁側腹膜で覆われているものは「真性ヘルニア」と、そうでないものは、「偽性(仮性)ヘルニア」とよばれます。

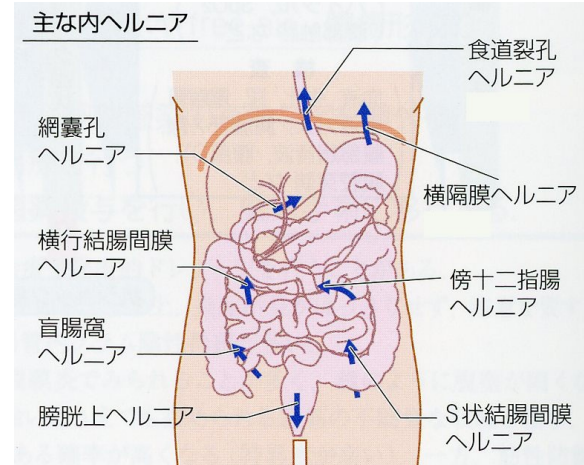
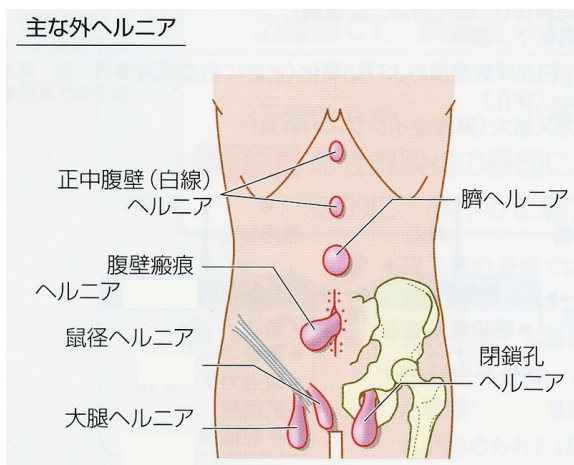


**腹部のヘルニア**は、腹腔内臓器が腹腔外に脱出する「外ヘルニア」と、腹腔内の間隙にはまりこむ「内ヘルニア」に分類されます。

「外ヘルニア」は腹腔内臓器がヘルニア嚢に包まれたまま皮下に脱出したものであり、体の表面から見え、触れることができます。ただし、大部分の「閉鎖孔ヘルニア」では外から見ることはできません。(図下)

「内ヘルニア」は、腹腔内に生じた間隙から腹腔内臓器が本来の部位から他の部位へ脱出(嵌入)したものです。食道裂孔ヘルニア以外は稀です。(図下)

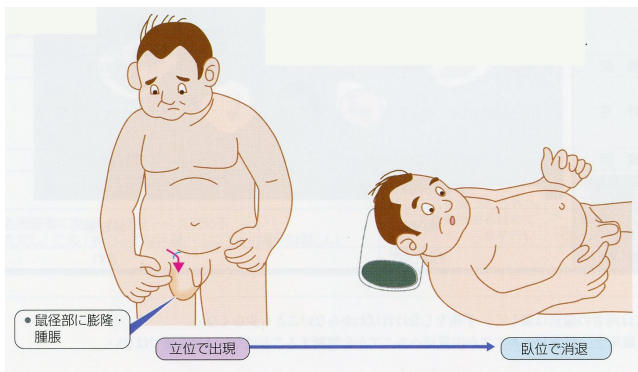
頻度は「外ヘルニア」の方が圧倒的に多く、なかでも頻度が高いのは「鼠径(そけい)ヘルニア」です。(前・側腹壁から脱出するヘルニアから「鼠径ヘルニア」と「臍ヘルニア」を除いたものを「腹壁ヘルニア」と総称されます。「腹壁ヘルニア」の最も代表的な原因は、開腹手術後に起こるもので、「腹壁癒痕ヘルニア」と呼ばれます。開腹手術を行うことで、腹部の筋肉などに欠損部が生じ、術後にその欠損部から腸などの内臓が脱出することがあります。)



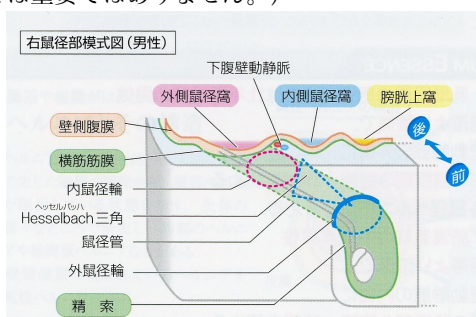
### 鼠径ヘルニア

「鼠径(そけい)」部とは、太もも、大腿部のつけねの部分のことです。

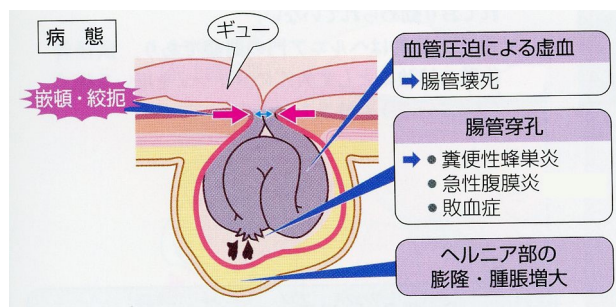
「鼠径ヘルニア」とは、本来ならお腹の中にあるはずの腹膜や腸の一部が、多くの場合、鼠径部の筋膜の間から皮膚の下に出てくる下腹部の病気です。一般の方には「脱腸」と呼ばれている病気です。



(実際には両者の鑑別は困難で、手術を行わなければわからないことが少なくありません。また、臨床では区別することは重要ではありません。)



右鼠径部鼠径部の模式図(男性)



があります。症状が出てから時間がたつと腸が壊死したり穿孔したりする危険性があります。痛みが伴う膨らみが自然に戻らない場合には、急いで手術をしなければ、命にかかわることになり専門家のいる病院を受診することが勧められます。

一般的に、「鼠径ヘルニア」は男性に多い病気であり、男女比は5：1とされています。しかし、年齢分布を分けて考えると、女性にもかなり多い病気です。さらに20歳代から40歳代までの若年層では男女比は2：1、50歳代以降の中老年層では男女比は5：1となり、若年層では女性の割合が多いのです。

20歳代から40歳代までの女性では、ほとんどが「外鼠径ヘルニア」です。この年齢層の「鼠径ヘルニア」では、腸がはまり込んで嵌頓症状をおこすことはまずありません。50歳代以降の女性では、やはり「外鼠径ヘルニア」が多いのですが、「内鼠径ヘルニア」や「鼠径ヘルニア」と間違われることのある「大腿ヘルニア」などの発症も見られるようになります。特に「大腿ヘルニア」は高齢女性に多いときれ、ヘルニアの嵌頓で発症することもあります。

図は、「病気がみえる vol.1 消化器」<MEDIC MEDIA>から引用しました。

初期症状は、立った時とかお腹に力を入れた時に鼠径部の皮膚の下に腹膜や腸の一部などが出てきて柔らかい<はれ>ができますが、普通は指で押さえると引っ込み、臥位では自然に消退します。(図左)

鼠径ヘルニアは、脱出部位の違いから「外鼠径ヘルニア」と「内鼠径ヘルニア」に分類されます。(図下)

乳幼児期の男児、または壮年期以降の男性では、(「下腹壁動静脈(図下)」の外側に膨隆がみとめられる)「外鼠径ヘルニア」が多く、肥満気味の中老年男性では「内鼠径ヘルニア」がみられます。

	外鼠径ヘルニア	内鼠径ヘルニア
下腹壁動静脈	下腹壁動静脈 腹部内臓(腸管など)	下腹壁動静脈
内鼠径輪	内鼠径輪	Hesselbach三角
外鼠径輪	外鼠径輪	外鼠径輪
特徴	内鼠径輪から鼠径管を通り、外鼠径輪に脱出	Hesselbach三角の抵抗減弱部から直接腹壁を貫いて外鼠径輪に脱出
頻度	多い	少ない
好発	乳幼児期の男児、成人	中高年男性
成因	先天的な要因が大きい	筋萎縮や肥満
下腹壁動静脈との関係	下腹壁動静脈の外側	下腹壁動静脈の内側
ヘルニア嚢の形状	楕円形	半球形
嵌頓	しばしば	まれ

<はれ>が急に硬くなったり、膨れた部分が押さえても引っ込まなくなることがあり、お腹が痛くなったり吐いたりすることがあります。

ヘルニア内容がヘルニア門より出っ放しになって戻らなくなった状態でヘルニアの嵌頓(かんとん)といいます。出っ放した腸や内臓などが出口(ヘルニア門)で絞められ血液の循環が悪くなると腸や内臓が壊死をおこし命にかかわる事態となります。痛みがある場合には一刻も早く脱出したヘルニア内容を戻す(「還納」といいます)必要

この「診療所だより」や診療についての御意見・御要望などをお気軽にお寄せ下さい。これからの参考にさせていただきます。

編集・発行： 勝山諄亮

勝山診療所

〒639-2216 奈良県御所市343番地の4 (御国通り2丁目)  
電話：0745-65-2631